

農業者の所得増大



農業生産の拡大



JA自己改革



取り組み事例集

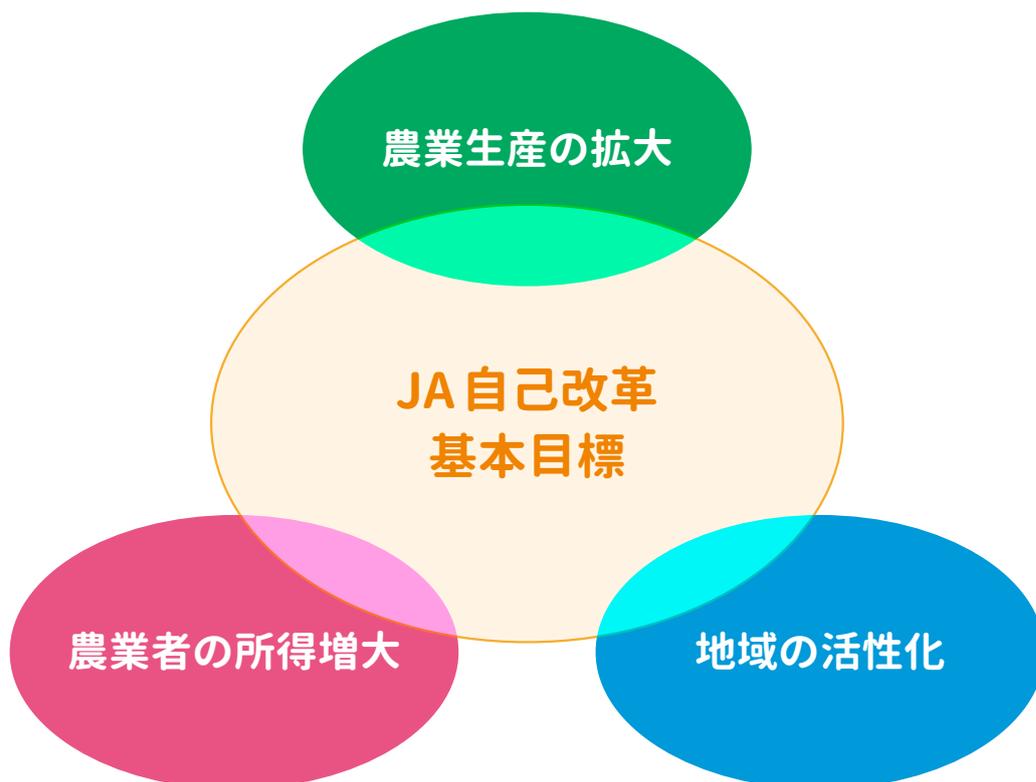
地域の活性化



全国のJAグループでは、「**農業者の所得増大**」「**農業生産の拡大**」「**地域の活性化**」の3つを基本目標として掲げ、地域農業の振興や地域づくりに向けた自己改革に取り組んでいます。

本県のJAグループでも、「**JAが変わる。農業と地域を変える。**」をスローガンに自己改革に取り組み、もっと農業と地域を盛り上げるために。もっとくらしを豊かにするために。私たちにできることを考え、実践しています。

本冊子では、本県のJAグループにおける自己改革の取り組みをご紹介します。



目次

JAわかやま	p2
JAながみね	p4
JA紀の里	p6
JA紀北かわかみ	p8
JAありだ	p10
JA紀州	p12
JA紀南	p14
JAみくまの	p16
JAグループ和歌山農業振興センター	p18
JAバンク和歌山信連	p20
JA和歌山県農	p22
JA共済連和歌山	p24

▶ 農業者の所得増大に関すること

〈業務用・契約栽培支援〉

種子・苗代の助成等収益性の高い露地キュウリ、ナスの業務用野菜の普及や、事前に価格が決定し、安定した所得が確保できる契約栽培（寒玉キャベツ、ロメインレタスなど）の拡大に取り組んでいます。



〈販売方式の拡大〉



▲ 特産農産物の効果的な消費宣伝として、京都市にてトップセールスを実施しています。

▼ 量販店との契約的取引により買い取り販売を実施しています。



▶ 農業生産の拡大に関すること



基幹品目拡大対策を実施しています。

- 野菜移植機のレンタルサービス
- 野菜苗大口奨励
- 新規親元就農者支援
- 園芸施設支援事業
- 鳥獣害対策支援事業
- 野菜・果樹等安定生産支援
(農業用井戸設置・かん水ポンプ購入費助成)

営農指導員は、現場で組合員ニーズに迅速に対応するため、タブレット端末を活用し、病虫害防除や農産物の肥培管理等画像を使用した的確な栽培指導の実施、栽培技術、病虫害発生予察、気象情報等最新の営農情報の提供に努めています。



▶ 地域の活性化に関すること

- ▼ 「美しい街づくり」の一環として「グリーンステーション」で育てた花の苗を和歌山市に無償提供しました。



- ▲ 日頃から地域の皆さまと強いつながりをもつJAだからこそ、安心して過ごせる地域社会をつくる「見守り活動」にも力を入れています。

小学生を対象にバケツ稲作り、野菜栽培体験学習及び出前授業、親子収穫体験(トウモロコシ)を実施しています。



青パトでの見守り活動を行っている(財)和歌山県防犯協議会連合会にドライブレコーダーを寄贈したほか、災害や緊急時に役立ててもらうため、和歌山市に救護用レスキューテントと防犯ベストを寄贈しました。

電光掲示板を設置し、交通安全に関するメッセージを表示しています。



▶ 農業者の所得増大に関すること



マレーシアの首都、クアラルンプールの地元量販店2店舗で、下津みかんのPR活動を行いました。試食宣伝や下津みかんの歴史、栽培風景、貯蔵庫などを掲載したパンフレットの配布、現地フリーペーパーでの紹介を行い、来店客の好評を得ました。日本貿易振興機構（ジェトロ）の地域団体商標海外展開支援事業を活用してジェトロ、和歌山県、JA和歌山県農、JAながみねが一体となって事業展開をしています。



「下津蔵出しみかんシステム」の日本農業遺産認定に向け、和歌山県・海南市とJAながみねは、下津蔵出しみかんシステム日本農業遺産推進協議会を立ち上げ、海南市役所で設立総会を行いました。同協議会は、2019年2月の日本農業遺産の認定、さらには世界農業遺産への認定を目指し一丸となり取り組みを加速させていきます。

日本農業遺産への認定は、名誉といった点もありますが、何より下津みかんをより広くPRできる効果が多大にあり、下津みかんの販売力強化に向け取り組みを拡大していきます。

▶ 農業生産の拡大に関すること



今年度新たに女性就農支援として、下津ブロック女性会による「女性農業塾」を開講し、農業未経験者や農業初心者がスムーズに農業に取り組める環境づくりに努めています。

ファーマーズマーケットへの出荷を目的とした少量多品目の野菜、果実を生産される農家が増加し、これに合わせて多種多様な農産

物に対する問い合わせが増えていきます。

このような状況を踏まえ、営農支援システム「農業電子図書館」の導入により、特に農薬については、使用適用範囲の変更が常時行われており、農薬安全使用の観点から、リアルタイムで更新した情報を得られること、そして誰に対しても一定の情報を提供できることが本システム導入の最大のメリットです。



▶ 地域の活性化に関すること



- ◀ 管内小学校の生徒を対象としたあぐりキッズスクールを開催し、農業体験や収穫した野菜を使った調理体験など、子どもたちに食の大切さや農の楽しさを伝える食農教育に取り組んでいます。



- ▲ エコ活動として「緑のカーテン大作戦」を、女性会を中心に展開しています。



- ▲ シニア男性向けの「男の道楽塾」を開催し、地域の方々との交流を図っています。

▶ 農業者の所得増大に関すること



生産資材では、農業所得増大および農業生産拡大を目指し、価格の引き下げや低コスト資材の取扱拡大を図るとともに、労力軽減資材の普及に取り組んでいます。

生活資材では、地場産米・県内産果汁製品の消費拡大に取り組んでいます。



- 農業生産コストの低減と労力軽減
- 渉外体制と購買窓口対応
- 農機・SSの利便性向上と収支改善
- 環境に配慮した生活資材の提供
- 購買店舗の見直し



販売部門では、農産物周年供給産地の強みを活かした販売戦略の実践、輸出・契約的取引の更なる拡大、マーケットインに基づいた商品づくり等、マーケティング機能の強化に取り組んでいます。さらにファーマーズマーケットを核とした直接取引の拡大、機能拡充による紀の里農産物の魅力発信と消費拡大により農家所得の増大に取り組んでいます。



- マーケットインに基づいた販売戦略の構築
- ファーマーズマーケットを核とした新たな展開
- 営農部との連携による生産者組織の活性化と共販拡大
- 農産物選果・流通コストの低減と販売事業を担う人材育成



▶ 農業生産の拡大に関すること

営農部門では、農業生産基盤の維持・強化を図るため、優良農地の保全と農業担い手の確保・育成に積極的に取り組んでいます。また、生産販売組織と一体となって第6次農業振興計画を着実に実践しています。



- 優良農地の保全と農業担い手対策の強化
- マーケットインを基本とする農業生産の拡大と農業者所得の増大
- 農業経営支援活動の強化
「人・モノ・情報」の交流を通じ、地域活性化を図る体験交流事業の拡充



▶ 地域の活性化に関すること

生活事業については、くらしの活動の展開により、食と農の大切さを地域住民に伝えるとともに、JA活動の情報発信とJAへの理解促進に努めています。また、組織活動の支援と支所協同活動への参画の促進により、地域の活性化へ取り組んでいます。

介護事業については、組合員や地域住民が安心して暮らせるよう、助け合い活動としての高齢者福祉活動を展開しています。



- 地域に根ざした協同活動の展開
- 女性組織をはじめとした組織活動への支援の実施
- 地域の高齢者支援のための介護事業の展開
- 安心して暮らせる地域づくりと高齢者生活支援の展開



▶ 農業者の所得増大に関すること

果樹類の周年出荷のため、落葉果樹・常緑果樹苗木の供給により若返り改植・新植を推進しています。

柿酢については、平成29年12月14日テレビ東京系列の番組で紹介され、「まるごと柿酢」の大量販売に成功しました（平成30年3月末現在 約19,000本）。

昨年より日本産柿の米国への輸出が解禁され、日本で初めて富有柿を輸出しました。本年は米国に刀根早生柿20t、豪州への輸出も解禁となったため刀根早生柿0.6t、平核無柿を0.4t輸出予定です。

その他、タイ、シンガポール、香港、マレーシア、カナダなどに輸出しました。



▲ 加工事業では柿酢のTV放映後、大きな反響があり、販売拡大に取り組みました。



◀ ハロウィン企画では「かきたん」のTV出演や販売促進を通じて、幅広い層に向けて柿をPRしています。



◀ ファーマーズマーケットを通じて、新鮮で安全・安心な農産物をお届けし、地域経済の発展と地産地消に貢献しています。



▶ 農業生産の拡大に関すること

紀北川上早生は、苗木注文が1,270本あり、高接ぎを含めると38haの栽培面積となる見込みです。紀州てまり（甘柿新品種）は、本年苗木を441本供給予定となっており、次年度以降の面積拡大に向け県と協議中となっています。

肥料・農薬の予約購買において、農薬17品目・肥料9品目を農家支援品目と位置づけ、価格低減を実施しています。また、生産資材等の特別推奨品目（軽トラ用品・柿収穫用品・充電式チェンソー・剪定鋏）を決定し、価格低減を実現しています。

「担い手塾」を塾生23人で開催、研修生2名受け入れ、新規就農者等の担い手育成を行うとともに農地中間管理事業、農地貸借事業の成約により、担い手への農地集積・優良農地の荒廃防止に努めました。

▶ 地域の活性化に関すること

金融部は、農業体験付定期積金「みのり」の契約者によるサツマイモ・落花生の収穫体験を開催し、約100名が収穫を楽しみました。

女性会では、1年を通して、仲間たちと一緒に農産物の収穫体験や料理教室、手芸などを学んでいます。毎年恒例の女性フェスタ「夏の運動会」では、各支部から女性会メンバーが大集合。様々な競技を通して、日頃の活動で培ってきた団結力を発揮しつつ、各支部の垣根を越えた仲間づくりができる交流の



場となっています。さらに、男性のためのサークルもあります。「男の料理教室」は男性たちが集まり料理の腕を磨く活動。一緒に料理を学び、できた料理を囲むことで、自然と会話が弾み仲間の輪が広がります。



▼ 女性会・役職員219人の参加を得て県下一斉クリーンウォークを開催し、地域の美化活動に努めました。



▲ 10月に地元の農産物を使ったランチプレートを提供し好評を得ました。

▶ 農業者の所得増大に関すること



● いいものを作る

- ①高品質生産や鳥獣害対策に資するため営農助成を実施。
- ②新規就農者等の担い手を対象に農業塾を開催。
- ③果樹経営支援対策等の補助金を活用し、優良品種への改植や単軌道設備等の生産基盤の整備に取り組んでいます。

● コストを下げる

- ①県内統一で水稻一発肥料を開発、コスト低減に取り組んでいます。
- ②配合肥料54品目の値引き対策の実施。
- ③大型農薬、ジェネリック薬剤の推奨。
- ④要領奨励・市況対策の実施。



● たかく売る

- ①AQ選果場の少量品目の一元集出荷販売を実施（荷造りコストの低減と安定計画出荷により所得向上）。
- ②市場の集約（重点14社）出荷と、厳選出荷等による高単価販売。
- ③有田みかんの輸出事業に取り組み販路開拓。



▶ 農業生産の拡大に関すること



● 産地を守る

①営農支援員を設置し、農地の流動化対策に取り組みます。 ②新規親元就農者への支援実施。

▶ 地域の活性化に関すること



▲ 体験型イベントや各種相談会を通じて、組合員や地域住民・利用者とのつながりを深めます。



◀ 子どもたち自身が、野菜の苗植えや販売体験、調理実習など「食」を学び「農業」を体験し、食の大切さや農業の役割を学ぶ『食農教育』のほか、農業の担い手育成をサポートする農業塾などを行っています。



▲ スマイルウォークでは、参加者の健康づくりのほか、新しい仲間との交流を深め、生きがいづくりを応援しています。



◀ 各支所では、支所だよりの発行・あらぎ島稲作体験・ソフトバレーボール大会・子育て応援教室・交通安全指導・全戸訪問活動等、様々な活動を行っています。

JA 紀州

▶ 農業者の所得向上に関すること

〈営農事業〉

- 販売部門と連携し、ブランド品目の尚一層の知名度アップと当産地の特産品の育成に努めています。
- 各種補助事業を活用して果樹の改植事業やハウス施設の新設・耐風化の取り組みなど、農業経営の向上やコスト削減を図っています。
- 地域・行政等との連携により補助事業を活用し、鳥獣被害の軽減に努めています。



〈販売事業〉

- 消費宣伝活動として、「ココ・カラ。和歌山」（県JAグループでの取り組み）、「梅愛隊」（主にみなべ町の梅生産農家の女性がメンバー）、「母の日参り」（JA紀州青年部）の活動や、行政の首長とのトップセールスにも取り組み、管内農産物の有利販売を目指しています。
- 直売所「フレッシュマート」（印南町）では、より多くの商品が陳列できるよう増改築を行うとともに、御坊市内の「スーパーデリシャスHIRO」の店舗内に直売所「紀州 花野果市」を設け、地産地消の取り組みを行っています。
- 梅干販売では、毎年、東京ドームで開催される「ふるさと祭り東京」に参加し、「tomato-ume（とまと梅）」の知名度アップを図るとともに、全国各地で消費宣伝活動を行い「紀州みなべの南高梅」の消費拡大に取り組んでいます。
- 西日本（四国4県と岡山県、九州6県、大阪府）の「セブン-イレブン」で「tomato-ume（とまと梅）」の販売を開始し、売れ行きは良好です。今後も「セブン-イレブン」との連携により「JA紀州」のネームブランドの向上を図ります。



▶ 農業生産の拡大に関すること

〈購買事業〉

- 組合員の肥料・農薬の購買高に応じて平成27年度、平成28年度は総額4,000万円の利用高配当を、平成29年度は総額3,000万円の利用高配当を行いました。
- 肥料・農薬の予約額に応じてのランク別奨励措置を実施するとともに、購買代金を口座振替（自動振替）されている方には年度末に購買代金の0.5%の奨励（口座振込）を行っています。
- 主要な農薬においては見積もり合わせを行い、コスト削減に取り組んでいます。



▶ 地域の活性化に関すること

食農教育として子供たちの農業体験学習や出前授業、親子料理教室を開催して、地域農業への理解や食の大切さを伝える活動にも取り組んでいます。



第4期目となる女性大学「ヴィーナス」、第2期目となる女性倶楽部「パール」と男性講座「『粹』くらし道場」を開催し、「くのいちフェスティバル」には毎年、多くの地域の皆様にご来場いただいています。

▼ 学童野球大会・ジュニアバレーボール大会等を開催し、青少年の健全な育成に取り組んでいます。



▲ 「クリーンウォーク」、「エコキャップ運動」などの地域貢献活動や、行政・県警と見守り協定を締結し、移動スーパー「とくし丸」（6車両運行）による買い物に不自由している高齢者の方々の支援や見守り活動を行っています。

JA 紀南

JA紀南では「積極的な改革と挑戦」を旗印に、平成29年3月に向う3カ年の取り組み指針である「第4次中期経営計画」、並びに6カ年の「第2次地域農業振興・再生計画」を策定し、取り組みを進めています。

中期経営計画においては「3つの挑戦」、地域農業振興・再生計画では「3つの基本方針」を柱として自己改革を進めるとともに、JA紀南が組合員や地域に不可欠な存在として負託に応え続けるため、「総合事業を堅持」する方針であります。

また、農協改革や環境変化に対応するため、支所機能再編と営農事業改革（収支均衡・体制整備等）の方向性を取りまとめ、平成30年2月には地区懇談会を管内24会場、同年8月からは13会場で開催するとともに、平成28年度から開催しています認定農業者との懇談や各組合員組織等においても話し合いを進め、自己改革に関する取り組みなどの情報発信や、組合員からの意見の収集に取り組んでいます。

尚、自己改革を含む中期経営計画等の実践状況を、以下の通り抜粋して報告いたします。

● 「第4次中期経営計画」3つの挑戦

- 地域農業の振興と農業所得の向上への挑戦
- 事業と活動を通じた「組合員・地域とのつながり強化」への挑戦
- 農業と地域を支える健全な経営確立への挑戦

● 「第2次地域農業振興・再生計画」基本方針

- 果樹を基幹とした総合園芸産地づくり
- JA紀南のブランドの確立と販売力強化
- 生産資材のコスト低減

▶ 農業者の所得増大に関すること



- ドライフルーツの加工事業を行い、青果流通で上位等級にならなかった果実に新たな付加価値を実現

平成30年4月に稼働し、年間300tの原料（南高・ハッサク・清見）を加工

- 直販野菜類等の拡大（県外スーパーの直売コーナー等での野菜類等の直販）
- 契約的・業務用野菜の強化（業務用レタスやエダマメ等）
- トルコギキョウ分科会一元販売による有利販売
- JA直売所による販路・所得拡大
ファーマーズマーケット「紀菜柑」
はじめ地域直売所・Aコープ内直売所
【平成29年度実績】9億5,700万円



● 農業所得向上対策支援事業

積み立てた原資1億円を活用しメニュー化

- 農地の規模拡大等への助成
- 優良品目転換助成
- 業務用レタス生産振興助成
- 高品質安定生産助成
- 獣害対策助成
- 地域活性化支援助成



● 梅・かんきつ類等の輸出拡大

香港、マレーシア、シンガポールなどへ温州ミカン・中晩柑・青梅・梅加工品を輸出

【輸出額】平成25年度 284万円

平成29年度 2,617万円

● 温州ミカンのブランド化と晩柑木熟シリーズの展開

「こだわり」など生産者をグループ化して、高品質・安定生産と有利販売による所得確保

【平均市場価格（平成29年産、1kg当たり）】

極早生「天」 362円・木熟201 783円

木 熟「天」 505円

▶ 農業生産の拡大に関すること

● 生産資材の価格低減対策

農薬の特別対策品目設定

（平成30年春夏期、18銘柄で通常予約価格より最大19%価格低減）

トラックからの直接引取（エコレット）の拡大

県内JA統一水稲肥料（エムコート）の開発

梅肥料の県内統一に向けた研究・検討



● 担い手への農地集積

農地中間管理事業等による貸借の利用権設定【平成29年度実績】166件・40ha

▶ 地域の活性化に関すること

● Aコープ移動スーパーの運行（管内組合員の利便性向上による地域貢献）

28年度 2車両 5コースで運行開始

29年度 4車両 10コースにルート拡大



▶ 農業者の所得増大に関すること

JAみくまのの特産であるイチゴ。那智勝浦町苺生産組合のマスコットキャラクターである「まりりん」は、黒潮の影響で温暖な気候が特徴の管内で育った「くろしお苺」をPRするために誕生しました。



道の駅「奥熊野古道ほんぐう」は、熊野古道に向かう観光客の憩いの場であると同時に、地場産野菜コーナーや郷土料理をメニューに加えたイートインコーナーの充実で、地域の魅力を伝える発信基地としても機能しています。



▶ 農業生産の拡大に関すること

「農業にもっと女性の力を」との思いから、トラクターや草刈り機の実演などの体験を通して女性農業者を支援する「農業女子インみくまの」を開催しています。

家庭菜園に興味のある方を対象にした「農業体験塾」も開講しています。参加者のみなさんは、農業初心者が多く、定期的集まって講座を受講するうちにしだいに打ち解け、農を通じて仲間を増やしています。



▶ 地域の活性化に関すること

管内では、女性組織の活動が活発です。女性大学では、体の疲れを癒すためのヨガ講座や、自分たちで収穫した野菜を使っの調理実習、フレッシュミズ活動では、クラフトテープやフェルトなど家庭にあるもので作れる手芸品講座など、女性には嬉しい講座や活動が目白押しです。女性大学への参加人数は年々増加傾向にあり、フレッシュミズの活動を継続する人も増えています。



活発な少年少女を育む目的の学童軟式野球大会や少年サッカー大会、ソフトバレーボール大会、支所が主体となって、JAと地域の親睦を深める「夕涼みの会」(太地支所)や「ふれあい祭り」(新宮支所)を開催するなど、地域全体が元気になる活動を続けています。

毎年秋に開催している「年金友の会」グラウンドゴルフ大会も、参加者が200人を超える大きな大会に。高齢者が生きがいづくりや仲間づくり、交流を深める場として、みなさん毎年楽しみにしています。



JAグループ和歌山農業振興センター

「和歌山県農業バリューアップ対策」

マーケットインに基づいた生産販売戦略を着実に実践し、「農業所得の向上」と「魅力増す和歌山農業」を実現するために、直販野菜や個性化商材の栽培面積拡大対策など、各JAの取り組み支援を行っています。

〈支援対策〉

①直販野菜拡大対策

- 組合員が直販野菜の生産に取り組む場合、生産・流通に必要な種苗・鮮度保持資材などの購入費用等の一部助成を行います。



②新規導入・振興品目拡大対策

- JAが野菜・花き・花木の新規品目導入に取り組む場合の試験栽培費用の一部助成を行います。
- 組合員がJA振興品目の生産に取り組む場合、生産・流通に必要な種苗・鮮度保持資材の購入費用等の一部助成を行います。



③個性化商品拡大対策

- 組合員がJAの振興する「味一みかん」等の高糖度商品、「紀の川柿」・「甘熟富有柿」の個性化商材の生産に取り組む場合、園地登録や資材購入費用等の一部助成を行います。

④果樹産地活性化対策

- 組合員が一定規模以上の園地で改植に取り組む場合、改植用の苗木・落葉果樹の柵・誘引資材の購入費用等の一部助成を行います。

⑤地域農業活性化対策

- JA・生産者部会がレンタル用農機を新規導入する場合、購入費用等の一部助成を行います。
- JAが地域農業の活性化に資するJA独自の取り組みを行った場合、必要経費の一部助成を行います。



「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」

「地域農業の振興」と「農業所得の向上」を実現するため、農家後継者への就農支援、施設園芸において規模拡大に取り組む組合員への支援、深刻化する鳥獣被害への対策支援など、各JAの取り組み支援を行っています。

〈支援事業〉

①新規親元就農支援事業

新規親元就農者（18～45歳）が規模拡大に取り組む場合、規模拡大に必要な農機具等の購入費用等の一部助成を行います。

②園芸施設設置支援事業

担い手等が農業所得の向上にむけ施設園芸用ハウスを設置する場合、工事費用等の一部助成を行います。

③鳥獣害対策支援事業

組合員が鳥獣被害対策に取り組む場合、被害軽減に向けた罠の購入、防護柵の設置などに係る費用等の一部助成を行います。



JAバンク和歌山信連

信連では、JAバンク自己改革の3本柱である「農業所得増大と地域活性化に資する踏み込んだ対応」、「JAが営農経済事業に全力投球できる環境整備」および「農業と地域・利用者をつなぐ金融サービスの提供・地域貢献」について、以下の具体的な取り組みを実施しています。

農業法人および担い手等への経営支援

● JAグループ和歌山県独自企画の実践

JAグループでは、平成26年度からの5年間で自己改革の集中期間と位置づけ、担い手の生産拡大・生産コスト削減を目的とした全国版「農業所得増大・地域活性化応援プログラム」（事業規模2兆円、助成金額1,000億円）を構築しています。加えて、JAグループ和歌山では、このプログラムを活用した県独自企画として、平成28年度から平成30年度までの3年間で総額11億円の事業を立ち上げ、農家・組合員の所得向上に取り組んでいます。



● 新規親元就農支援事業（JAグループ和歌山農業振興センターを通して実施）

親元新規就農者の規模拡大にともなう農機具等購入費用の一部助成を行っています。

● 園芸施設設置支援事業（JAグループ和歌山農業振興センターを通して実施）

担い手等の施設園芸用ハウス設置費用等の一部助成を行っています。

● JAバンク和歌山保証料助成事業

農業近代化資金等の農業資金を借入れする際に必要な和歌山県農業信用基金協会保証料について全額助成を行っています。平成27年7月の事業開始から、30年3月末までに累計837件、40百万円の助成を行いました。

● 農業法人に対する支援強化

農業法人の経営力強化を目的に、アグリビジネス投資育成株式会社の「アグリシードファンド」の紹介を行い、平成30年度末までに県内の農業法人6社が出資を受けています。

また、県内JAで農業法人の運転資金ニーズに対応した「JA農業法人応援ローン」の取扱いを行い、県内の農業法人から運転資金としてご利用いただいております。

地域貢献に関する取り組み

健全な青少年の育成と明るい地域社会づくりを目指し、県内で開催される様々なスポーツ大会を後援しています。これからも、JAバンク和歌山として地域社会に貢献するとともに、身近な地域金融機関として地域の方々の交流の場を広げていきます。



▶ 次世代を担う子どもへの農業に対する理解を広げるため、農業体験や地元食材を使った料理教室などの食農教育活動に対して、活動費用の一部助成を行っています。また、県の教育委員会と連携し、教材本「農業とわたしたちの暮らし」を、県内247の小学校に10,420冊を贈呈し、小学校の授業等で活用していただきました。



◀ 社会貢献活動の一環として、ペットボトルキャップならびにプルタブの回収を行い、福祉団体等へ送付するとともに、福祉事業貢献への取り組みを行っています。

総合相談会等の開催

地域の方々の法律・税務・相続等の相談に対応するため、県内の5ヶ所の会場で、弁護士や税理士による無料の相談会を定期的で開催しています。平成29年度は延べ51回開催し、197件の相談を受け付けました。また、県内JAにおいても、地域・組合員の多様なニーズに応えるため、相続に関するセミナーや、年金やローンに関する相談会等を開催し、積極的にご利用いただいています。

JA和歌山県農

JA和歌山県農は「農協改革集中推進期間」の最終年度として総仕上げを行っています。「一円でも多く生産者の手取りを確保する」「一円でも安く良い資材を提供する」をスローガンとして「県農自己改革」に取り組んでいます。

「消費者までの距離を縮める」直販事業の強化

マーケットインに基づく直販取引として業務用野菜や量販店向け産直農産物の取扱拡大に取り組んでいます。



「需要をつくる」輸出量の拡大

新たな需要創出の一環として、海外販路の確立に向け、現地での販売促進活動を展開しています。主に東南アジア地域を中心に店頭にて県産農産物の高品質・美味しさをPRしています。柿は平成29年産からアメリカへ、平成30年産からオーストラリアへ輸出を始めており、新たな販路の開拓にもトライしています。



シンガポールでの販売促進活動

「生産者個々の努力を活かす」個性化商材や地域特産品の取扱拡大

個性化商材のゆら早生、味一みかん、紀の川柿、高糖度ミニトマト、地域特産品のうすい、新しょうがなどの県域ブランドの取扱拡大に取り組んでいます。

「製造流通コストを下げる」 銘柄集約・集中購買

生産資材のコスト低減の一環として、複数の銘柄を集約した県内統一銘柄の水稲一発肥料の普及拡大や、土づくりコストの低減と省力化のため、「アヅミン」の集中購買を行っています。



左は水稲一発肥料 右は系統独自資材「アヅミン」

農薬重点品目・大型規格の低価格商品の取扱拡大

大型規格品やジェネリック品など低価格商品の取扱拡大に取り組んでいます。また、低コスト段ボール原紙の採用など輸送包装資材のコスト低減にも積極的に取り組んでいます。

「シェアリングを増やす」 農機レンタル事業

農機購入の初期投資を抑えるとともに保管場所もとらず、1日からでも利用できる県農農機レンタル事業に取り組んでいます。費用負担を軽減することで、農業生産規模の拡大や新規就農者を支援します。



JA 共済連和歌山

JA 共済連和歌山では、JA が自己改革に取り組むための環境整備・支援策として、ペーパーレス・キャッシュレス手続きの導入・拡大や、自動車損害調査体制の再構築等により、JA の事務負荷軽減に取り組んでいます。

また、地域農業の振興と地域の活性化、豊かでくらしやすい地域社会を実現するため、「ひと・いえ・くるま・くらし」の各分野における和歌山県独自の地域貢献活動の展開や、JA が実施する農業・地域活性化施策の取り組み支援、JA グループ和歌山農業振興センターと連携した鳥獣被害対策に取り組んでいます。

「ひと・いえ・くるま・くらし」分野における地域貢献活動

〈交通事故未然防止活動〉



カラーベスト・キャップの寄贈

交通事故のない地域社会を目指して、地域の見守り隊へのカラーベスト・キャップの寄贈や、幼児・園児・生徒・高齢者など年代に応じた交通安全教室を実施しています。



園児向け交通安全ミュージカル



生徒向け自転車交通安全教室

〈防犯活動〉



贈呈式の様子

組合員・地域住民が安心・安全にくらせる地域づくりに貢献するため、和歌山県防犯協議会連合会と連携し、地域巡回型の防犯ボランティア活動への支援として、青色回転灯付防犯パトロール車を寄贈しました。

〈文化支援活動〉

心の豊かさや絆の大切さを次世代に伝え、小・中学生に対する書写教育の貢献および美術教育の高揚に資するため、「JA 共済小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール」を開催し、多くの作品を出品いただきました。



入賞作品展示会

〈スポーツ支援活動〉

スポーツを通じた青少年の健全な心の育成と地域のスポーツ振興を図るため、「JA 共済旗学童軟式野球大会」を開催し、各支部予選を勝ち抜いた強豪チームが熱戦を繰り広げました。



JA 共済旗学童軟式野球大会

〈健康・福祉活動〉

組合員・地域住民が健康で元気な生活を送れることを目的に、一般社団法人 和歌山県農協共済福祉協会と連携し、健康管理・健康増進活動や、高齢者福祉活動に取り組んでいます。



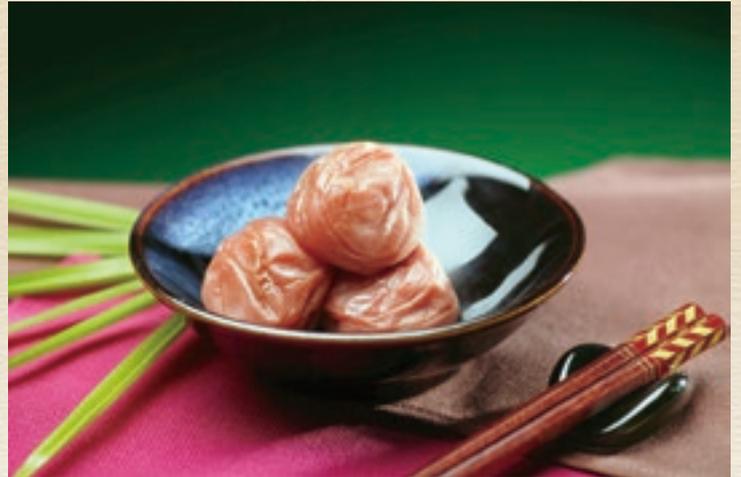
レインボー体操

JAが実施する農業・地域活性化施策の取り組み支援

平成28年度から平成30年度の今次3ヵ年において、総額2億5,000万円を超える「JA 共済地域貢献活動にかかる助成金」を設定し、JAが実施する食農教育活動や地産・地消イベントの開催支援や、高齢者対策等に資する移動購買車の導入、福祉用具・医療機器の寄贈、スポーツ、文化活動の支援等を行っています。

鳥獣被害対策に資する取り組み

地域における野生鳥獣による農作物被害を防止し、安定した農業収入・地域生活の維持を図るため、JAグループ和歌山農業振興センターと連携し、防護ネット等の購入にかかる支援を行っています。



JAグループ和歌山

